

## ◆今期間のポイント

## &lt;主要じょう乱の概要&gt;

- 6日は、高気圧が北日本から日本の東へ進む。この高気圧は10日にかけて、千島の東にゆっくり進む。
- 7日から8日にかけては、別の高気圧が黄海から西日本付近に進み、低気圧が日本の南を北東に進む。
- 9日から10日にかけては、低気圧が日本の東を東進する。また、前線が東シナ海から西日本付近にのび、前線上には低気圧が発生する可能性がある。

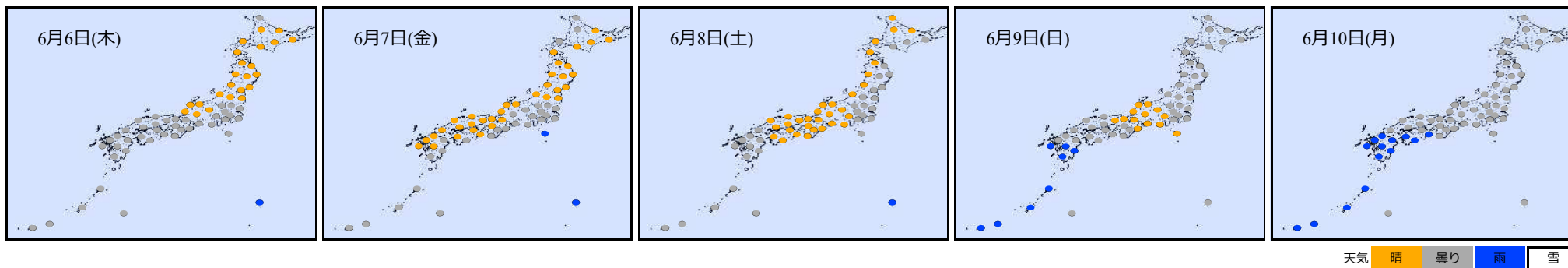
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 令和6年能登半島地震で揺れの大きかった地方は地盤の緩んでいる所があり、少しの雨でも土砂災害の危険度が高まるおそれがある。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

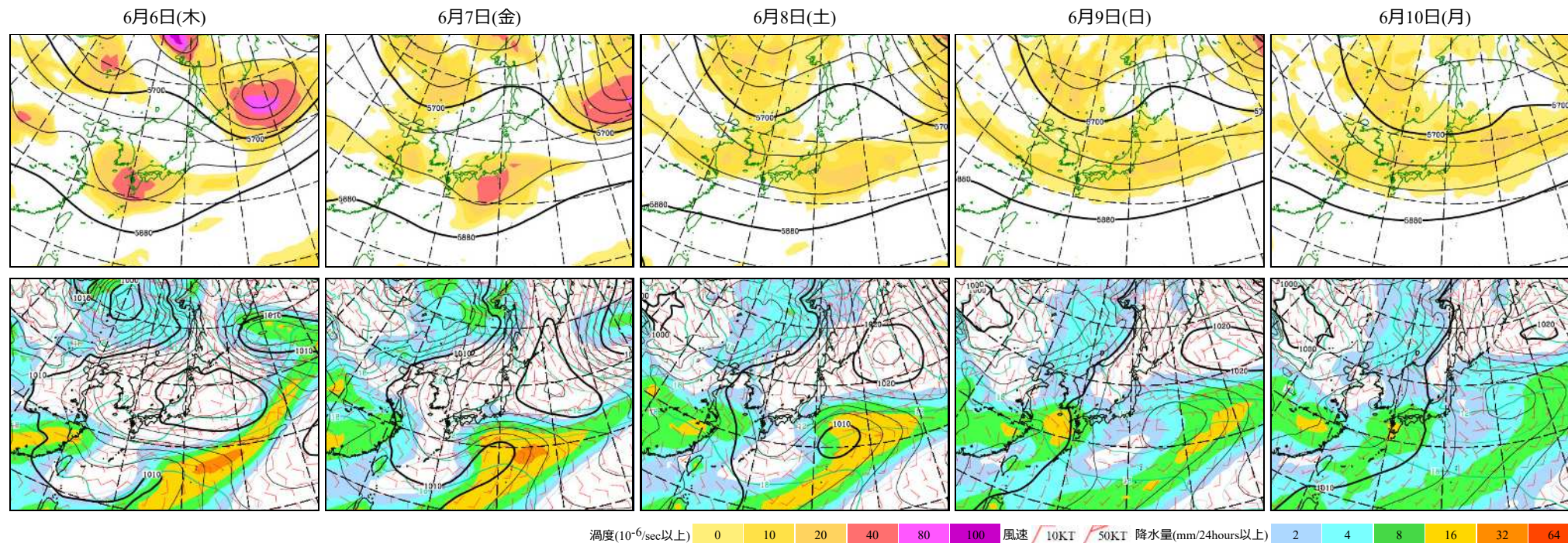
## ◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)



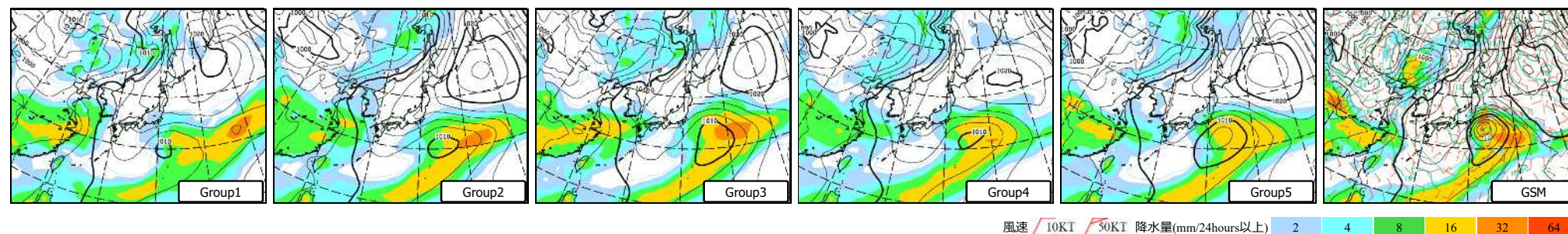
- 北日本と東日本は、曇りまたは晴れとなる。
- 西日本は、晴れる所もあるが雲が広がりやすく、9日から10日にかけて雨の降る所がある。
- 沖縄・奄美は、曇りの日が多く雨の降る所がある。



◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆6月8日のENSクラスター平均(グループ1~5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、上空の流れに大きな初期値変わりはない。7日に日本の南を進むトラフがやや浅くなった。期間の終わりに日本海付近に進むトラフがやや深まった。地上の気圧配置に大きな変化は見られない。
- 7日は、各モデル日本の南を進むトラフが浅くなる初期値変化を示し、低気圧の発達程度は弱まる傾向だが、その後のトラフの予想がやや異なり、8日から9日の低気圧の進路についてはまだバラつきが見られる。ENSメンバー間でもバラつきが見られ、本州付近に近い位置を予想するメンバーも存在するが少数である。10日は、トラフが西から接近する予想が各モデル明瞭になり、前初期値のENSの予想に近づく傾向にあるが、トラフの深さや地上の低気圧の動向については、依然モデル間の差が見られる。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。